

■北星学園大が3 TDパスで快勝。春季オープン戦第2日

北海道学生アメリカンフットボール連盟が所管する2023年春季オープン戦の第2日は6月25日、札幌市円山競技場で第47回すずらんボウルとして開催され、北星学園大が自慢のホットラインで3本のパスTDを奪い、20-6で東京農業大に快勝した。第3日は7月9日、札幌学院大グラウンドで釧路公立大-室蘭工業大、北星学園大-札幌学院大・北海道科学大・北海道医療大合同チームの2試合を行う。

昨年秋の道学生選手権（秋季リーグ）では7-7で引き分けた両校。ともに経験豊富な4年生QBがリードすることもあり、半年ぶりの再戦はパスの投げ合いになった。

先手を取ったのは東京農業大。第2Q 11分にWR/DB戸田省吾（3年、東京・関東国際高）のインターセプトで敵陣22ヤードで攻撃権を得ると、前半の最終プレーでQB金井康晴（4年、神奈川・舞岡高）がWR浅川夏暉（1年、東京・安田学園高）へ10ヤードのTDパスを決めて6-0と先制した。



北星学園大の反撃は第3Q 5分。インターセプトで自陣41ヤードで攻撃権をつかむと、QB中手龍一（4年、札幌静修高）がWR中田大翔（3年、北星学園大付属高）とWR河瀬隼人（2年、札幌稲雲高）にパスを連投。最後はWR中田が相手DBと競り合って13ヤードTDパスをキャッチして6-6とした。

さらに第3Q終了間際に自陣25ヤードで得た攻撃シリーズでも、QB中手が短いパスを重ねて前進し、仕上げは第4Q 0分8秒、WR中田へ44ヤードのロング弾を決めてTD。PATもQB中手のキープで14-6と勝ち越した。とどめは、DB清家海地（2年、静内高）のインターセプトで得た敵陣32ヤードからの攻撃シリーズ。QB中手のパ



スとキープなどで前進すると、4分にWR中田へ17ヤードのTDパスで20-6とした。

東京農業大は第3Q、2番手QB関叶翔（1年、茨城・日立北高）を投入したが追加点を奪えず、第4QにはエースQB金井を再投入したが、北星学園大にパスをインターセプトされるなどで反撃できなかった。

3TDキャッチの北星学園大のWR中田は「今日は守備がメインのつもりだったが、相手チームに流れが行きそうだったので、頑張った。去年よりしっかりとキャッチできている」と成長をアピール。北野啄夢監督は「ホットラインは去年よりも安定したが、秋に向けてまずは選手数を早急に増やしたい」と危機感を強調した。

一方、東京農業大の高嶋雄也監督は「練習不足が出たが、1年生がいい動きを見せた。QB関はインターセプトされてもいいと言って出したが、走れることも分かった」と収穫を挙げた。

（広報委員 塚田 博）